

三原二中校長通信

校訓「響き合う二中っ子」

キャッチコピー「響き合っていますか、私たち」

第13号

平成23年2月22日

「生徒指導の三機能を生かした授業づくりの徹底」を検証

この度、本校の実践例(下表)が、広島県公立中学校長会の「研究集録」(平成22年度)に掲載されることになりました。各教科等(各教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動)における「生徒指導の三機能を生かした授業づくり」の進捗状況はいかがですか。どのような授業を提供することが生徒の興味・関心を引き付け、確かな学力を身につけさせることにつながるのかを振り返り、検証してみましょう。

今一度、「生徒指導の三機能を生かした授業づくり」の基本形を確認し、下表の授業評価票を授業実践に生かして欲しいものです。授業に意欲を示さない生徒をいかに授業の中に引き込めるかは、授業内容の充実と生徒指導の三機能を生かした授業づくりの充実にかかっています。

【生徒指導の三機能を生かした授業づくり—授業評価票】

導入	I 授業に集中できる環境づくり
	①チャイム着席(チャイムと同時に着席、黙想)を徹底させる。
	②授業開始の挨拶(大きな声で礼儀正しく)をきちんとさせる。
	③出欠席の確認(フルネームで呼名、大きな声で返答)をする。
	④姿勢(身だしなみ・立腰)について確認し、指導する。
	⑤学習環境(机・椅子・ロッカー・床・掲示物・黒板の整理整頓)について確認し、指導する。
	⑥小テスト(前時の復習)をする。
⑦本時のねらいや目標を提示する。	
展開	II 生徒指導の三機能を生かした授業づくり
	1 共感的人間関係
	①よい姿を褒め、好ましくない姿を正す(叱る)。
	②生徒同士の相互作用(生徒の発言をつなげ、生徒同士の学び合いになるようにすること)を取り入れ、お互いのよさを認め合い・学び合う「協同学習」を大切にする。
	③教師主導にならないよう、生徒の活動を取り入れた活用型の授業を推進する。
	2 自己存在感
	①生徒同士の主体的・能動的な学習になるよう、ペアトーク・グループトーク・クラストークなどを取り入れ、他者との積極的なかわりを通して他者理解・自己理解が図られるようにする。
	②意欲を見せない生徒や学業が振るわない生徒には、机間指導などによってサポートする。
	③「よくできたね」「頑張っているね」などの承認・賞賛・励ましの営みを大切にする。
	3 自己決定
①「一人学び」を取り入れるなど、一人で考える時間を設定する。	
②生徒が自分の考えをみんなの前で発表したり、役割演技をしたりするなどの表現の場を設定する。	
③発表などの表現ができていない生徒には、段階的な指導や補助発問などによってサポートする。	
④生徒一人ひとりの学習状況を見とりながら、個に応じた指導を行う。	
終末	III 本時のまとめと次時への接続
	①自己評価や相互評価など、生徒の評価活動を取り入れて本時の振り返りをさせる。
	②学習内容だけでなく、学習規律や関心・意欲・態度、思考力・判断力・表現力等を含めた授業全体の評価をする。
	③次時の学習の予告及び家庭学習(宿題—授業との接続)の指導をする。
	④授業終了の挨拶をきちんとさせる。

*指導の徹底を図る—一定のレベルに達していない行為は是認せず、やり直しをさせる。